

## 埼玉ブロック通信 10月号

教えて！ ケアマネさん！  
～今月は埼玉県介護支援専門員協会長の長谷川佳和先生にインタビュー～



ケアマネさんから見た！『必要とされる福祉用具専門相談員』  
我々福祉用具専門相談員は専門職として何を磨き、どう研鑽していけば良いのか、  
必要とされる福祉用具専門相談員を目指す！  
趣旨でインタビューをレポートに纏めて定期配信します。

### 必要とされる

### 福祉用具専門相談員

長谷川先生  
「やっぱり人。」  
「利用者の幸福を一番に考える事が出来る福祉用具専門相談員。」  
「利用者さんが何をしたいか？どんな事に困っているか？共感出来て、利用者の幸福度を高めたいと考えている、そういう専門相談員だね。」  
またそういった専門相談員を抱えている事業者は長く続けられている。勝ち残っているように思う。

### 福祉用具専門相談員のパワー

現状、福祉用具の事を詳しく知らないケアマネも多い。  
福祉用具専門相談員は機種の違いも、他の商品の事も幅広く知識がある。

埼玉県介護支援専門員協会会長  
長谷川佳和先生。  
プロフィール…  
柔術整復師勤務後、老人ホームの現場から管理まで行う。  
介護保険認定審査員や第三者評価に関わり、厚生労働省のマニュアル作成メンバー。  
海外ではJICAの活動  
タイに介護サービス開発プロジェクトを行い、最近では中国での高齢サービスにも関与。  
居宅介護支援事業所  
長谷川事務所を運営。

利用者さんの目標設定に対して様々なアプローチができる。例えば2mベッドと一言で言っても、機種毎で出来る事が細かく事なる。その違いはパツと見は、あまり変わらないかも知れないが利用者には大切な違い。

本日はケアマネと別に、福祉用具専門相談員から見た利用者の生活目標と課題解決方法を突合していけば良いケアプランが出来上がると思う。  
それぐらい福祉用具には本人の生活を变えるパワーがある。  
例えばサービス導入初期には利用福祉用具の状況を聞いたりしながら、使い勝手と共に他のニーズを拾う時期と捉えて10日間ぐらいは利用者の課題を収集する時間に充てたらどうか？ケアマネとは違った視点で利用者の解決すべき課題や解決方法を考える事ができると思う。  
そういうことが出来るとケアマネが困っているケースに対しても助けになる事ができるのではないかな？

### ケアマネが立てた目標に 甘んじていないか？

ニーズは分かるけれども、長期、短期の目標を立てることに苦勞しているように見える。  
(ケアマネ同じ)  
ケアプランを見ると福祉用具の利用目標が“安全に事故の無いように使えるようにする。”とある。本来は福祉用具専門相談員が短期目標、長期目標を数値化し設定する事で、振り返って支援を評価できるようにすべき。  
現状は福祉用具専門相談員もケアマネの立てた利用目標に甘んじてしまっている。  
きちんと目標設定と評価を行ってあげれば、ケアマネも福祉用具専門相談員に頼れるようになり、ケアプランの質をもっと高めていけると思う。

### 世界を変える 福祉用具

日本は高齢化社会先進国。  
海外からも注目される中、国内で福祉用具の相談援助技術やケアマネジメント技術を海外に輸出していかなければならない。  
例えば北欧、福祉用具はセラピストが適合を考えているだけ、日本のように豊富な福祉用具の知識の中から利用者に合う商品を選定する専門職はない。またアジア諸国には福祉用具が手に入らない地域が多い現状。

ケアマネジメメント技術と共に、海外でも一つの分野として“福祉用具選定技術”が最近学ばれ始めて来ている。  
我々の業務が将来的には国内だけでなく世界に広がっていくことが出来るように、お互いに(ケアマネも福祉用具専門相談員も)専門職としてお互い切磋琢磨していくことが本当に必要な専門相談員なのではないか。

発行元：  
ふくせん埼玉県ブロック  
事務局  
株式会社ヤマシタ

問い合わせ先：  
ふくせん埼玉県ブロック  
J-ogura@yco.co.jp